

高等部

高等部における縦割りクラス導入について

鈴木雄紀 鈴木裕大 中川李梨子

2024年度の共学化に伴い、中高のクラス編成も、これまでの「1学年1クラス」から複数クラス制へと移行した。その中で高等部では、新たな取り組みとして縦割りクラス(異学年混合クラス)を導入した。本稿では、その導入に至る背景と検討の経緯、実際の運用と生徒の取り組み、さらに生徒の声から見てきた学びや課題について報告する。

1. 導入の経緯

これまで自由学園の中等科・高等科では、女子部において授業を前後半に分けて行う運用はあったものの、基本的に1学年1クラス体制をとっており、6年間を通じてクラス替えは実施されてこなかった。

しかし、2024年度からの共学化により各学年の生徒数が増加し、複数クラスを編成する必要が生じたことから、クラスの在り方そのものを見直すこととなった。

検討にあたっては、「学級とは何か」「学級で学ぶとはどういうことか」といった根本的な問いを立て、教職員間で対話を重ねた。その中で挙げられた意見には、以下のようなものがあった。

- ・他者との長期的な関わりを通して、相手を多面的に理解すること
- ・自分で選ばない他者と関係を築く力を育むこと
- ・クラスは平和をつくる最小単位であること
- ・安心や理解が育まれる場、居場所としての役割
- ・対話・協力・共生といった社会的な力を身につけること
- ・多様な人々との共生を学ぶこと
- ・問題を個人の問題にせず、話し合いの場で解決する力を培うこと
- ・自治や責任、委員会活動など、共同性を育む仕組みの中での学び

こうした対話を通じて、「高等部におけるクラスは平和をつくるための一単位である」という認識が教職員間で共有され、その具体的な実現手段として、異なる年齢の生徒が交わる縦割りクラスの導入が検討された。

「社会には多様な人がいて、そうした人々がともに平和を築いていく。では、学校はどうだろうか」という問いを出発点とし、学校を社会の縮図として捉えたとき、クラス内の同質

性を緩和し、性別や年齢による隔たりを越えて多様な背景を持つ人々が共に学び合う場を設けることが、平和をつくる人が育まれていくことに繋がっていくと考えた。

ただし、これまで同学年クラスで過ごしてきた生徒たちの経験や希望も大切にしたいという思いから、2024年度は「縦割りクラス」と「横割りクラス(同学年クラス)」のいずれかを生徒自身が選択できる仕組みとした。この選択制は2025年度にも継続されている。

2023年12月には、在校生に対し共学化後のクラス編成について説明を行い、予備調査を実施した。さらに2月末から3月上旬にかけて本調査を行い、クラス分けを決定した。また、2024年度から入学する生徒に対しても、入学準備説明会の中でクラス編成について説明し、同様の希望調査を実施した。

2. 2024年度の縦割りクラスの仕組み

2024年度に縦割りクラスを選択した生徒は21名であった。内訳は高等部1年生12名(中等部からの内部進学生1名、高等部入学生10名、転入生1名)、高等部2年生3名、高等部3年生6名であり、縦割りクラスは1クラスとなった。横割りクラスは、高1と高2がそれぞれ3クラス、高3が2クラスとなり、縦割りクラスとあわせて9クラスが編成された。

クラス名は、縦割りクラスをAクラス、1年生の3クラスをB・C・Dクラスとし、学年名を付けずにアルファベット順で統一した。これは、縦割りと横割りのクラスを並列に扱った際に違和感を生じさせないためである。

縦割りクラスでは、授業は学年別に行われるが、朝・帰りのホームルームや懇談、行事などは縦割りクラスで実施する。教室のレイアウトは生徒との話し合いにより、前方に個人用の机と椅子を配置し、後方には大きな机の周囲に椅

子を円状に並べ、全員の顔を見ながらサークル対話ができるよう工夫された。

3. 春期の取り組み

4月の始業式でクラス発表があり、縦割りクラスを希望した高2・高3の計9名が教室に集まり顔合わせを行った。早速、高1のクラスメイトを迎えるため、高2・高3が主導して教室レイアウトの調整、椅子の配置、黒板アートの作成、新入生一人ひとりへのメッセージカード作成など、2日間かけて準備を行った。

入学式当日は、新入生を教室で出迎え、名前、学年、誕生日などの自己紹介を行った。新入生を在校生がクラスメイトとして迎えることができるのは縦割りクラスならではの、新入生にとっては、分からないことを気軽に尋ねられる安心感があつたと考えられる。

最初のクラスの時間では、サークル状になり「縦割りクラスを選んだ理由」「どんなクラスにしたいか」について1人ずつ紙に書いて共有し、感情カードを使ったワークも行った。学年ごとに希望した理由は違い、さまざまな思いを持って集まっていることをお互いに知る時間となった。ポジティブな感情だけでなく、ネガティブな感情も共有していき、お互いの感情を受け取り合うマインドを育てていった。

教員によるNVC(非暴力コミュニケーション)の授業も行った。異年齢の生徒が集まるクラスとして、異なる他者を認め、対話する姿勢を育てていくことには力を入れたが、縦割りクラスを選択する生徒たちは、特にその姿勢をもともと強く持った人たちであった。

4月終わりには保護者会に向けて、生徒たちが縦割りクラスの紹介動画を作成した。保護者にも生徒の様子や雰囲気分かる内容になり、クラスの仲も深まることになった。

夏休み前には、1学期の振り返りかねて、お菓子を持ちより、一人ひとり入学から今までの振り返りを聞き合った。

こうした取り組みを重ねることで、学年、性別を越えて安心して過ごせるクラスの風土が育まれていった。

4. 秋期の取り組み

秋期では、梨花祭(文化祭)での「昭和喫茶」出店、「Aクラスプロジェクト」の提案、保護者会での生徒によるプレゼン、スポーツレクなど、クラスでの活動、話し合いの機会が多くあつた。

「Aクラスプロジェクト」は、次年度以降に縦割りクラスの

良さを継承していくために、生徒自身が企画したものである。在校生に向けて、縦割りクラスの特徴や魅力、困っていること、自身が縦割りを選んだ理由などを発表した。3か月以上かけて準備されたこの発表は、縦割りクラスの雰囲気や実態がよく伝わる内容となり、中等部生の中にも興味を持ってくれる生徒がいた。

学年末には、卒業を迎える3年生のクラスメイトに対して、感謝の気持ちを込めた色紙を贈り、皆で温かく送り出した。また、3年生からも、1,2年生一人ひとりに向けて手紙が送られた。入学式と同様、同じクラスの中に、送る人と送り出される人がいることが、縦割りクラスならではの良さである。

5. 生徒の声から ～Aクラスプロジェクトより～

2025年度以降の縦割りクラスのあり方を見据え、Aクラス(縦割りクラス)の生徒たちは、「Aクラスプロジェクト」として中等部から最高学部までの全生徒・学生に向けての発表を企画・実施した。発表では、縦割りクラスの仕組みや日々の様子、メリット・課題、縦割りクラスを選んだ理由や良かったことなどについて、それぞれの視点からの生徒の声が共有された。

生徒からは縦割りクラスの特徴として、「実社会に近い構成であることが、他学年との関わりや多様な価値観に触れる機会となっている」「通学生にとっては特に、縦のつながりを感じられる貴重な場」といった声が寄せられた。また、2024年度のAクラスの特徴として、「明るく、学年・性別を超えて仲が良い」「少人数ならではの一体感がある」「誰とも気軽に話せる雰囲気」などが挙げられた。

一方で、「授業のたびに横割りクラスへ移動する不便さ」や「同学年との関わりが希薄になる」「情報の伝達が遅れる」といった具体的な課題も率直に共有された。

縦割りクラスを選んだ理由としては、「面白そう」「新しい挑戦をしてみたかった」「他学年ともっと関わってみたい」「共学化のタイミングで新たな一歩を踏み出したかった」などが挙げられ、多くの生徒が好奇心や探究心からこの選択をしていたことがうかがえた。

実際に縦割りクラスで過ごしてきた生徒たちの感想の一部を抜粋する。

・「私は縦割りクラスを選択する際に悩んだこともありましたが、一番心配だったのは、『高2や高3が怖かったらどうしよう』でした。上級生と一緒に生活することは気を使うことが

多かったからです。でも、よく考えてみると縦割りに入ったことは上下関係をあまり気にしないでいいと言うことに気が付きました。実際今の高2、高3は気楽に話してくれます。自分は縦割りクラスという慣れない社会に入ることによって様々なことに気づき成長したと思います。」

・「僕が縦割りクラスに入ってよかったと思うことは、クラスメイトが異学年なので自然と縦の交友関係ができる事です。また高1としては上級生に相談、質問等をできる事が大きいと感じます。僕は今まで他学年と積極的に関わる人ではなかったのですが、このクラスに入って、たくさんの人間関係を築きました。様々な人と関わりたいけれど、自分から行くのが苦手な人にも縦割りクラスと言う環境はおすすめです。」

・「高2で縦割りに入る良さはやっぱり一言で表すなら「真ん中である」というところにあると思います。普段の昼食や労作などでも上下級生と関わる機会がありますが、縦割りクラスの中に入ると自然と上級生とも下級生とも近い関係性になれるような気がします。上級生の背中を見て学ぶこと、下級生の話から気付かされること、その両方があるので発見が絶えず楽しい毎日です。」

・「高3の僕は、Aクラスに入って、下級生の喋ったことのない人と喋る機会が増えました。しかも今年度は高等部新入生が半分以上ということで新しいクラスを作っていくという視点で過ごしてきました。少人数クラスなので一人ひとりの役割が多く、自分自身も初めて文化祭で係の役割を担いました。みんな不慣れなことが多い中でどうやってクラスを回していくかなど各行事や普段の生活を通してクラスを作ることができたのは良かったと思います。」

発表の最後には、Aクラスの生徒たちから、縦割りクラスの雰囲気を知ってもらい、縦割りクラスと言う文化を学園に浸透させ、その良さを繋ぎながら来年度以降の選択肢としてより多くの人に知ってもらうために、中高在校生とAクラス生徒との懇談会の開催が提案された。後日行われた懇談会には中等部の生徒も参加し、縦割りクラスについての質問などに対し、生徒たちは丁寧に答えていた。

6. 2024年度取り組みと総括と今後に向けて

2024年度、初めて導入した縦割りクラスは、異なる学年・年齢の生徒たちが日常的に関わり合い、互いに学び合う中で、温かくなつたりと信頼関係を育んでいった。そうした関係性は、クラスが「平和をつくる一単位」であるという高等

部の理念を、確かな手応えとして体現するものとなった。

一方で、授業は横割りで行われること、懇談等でクラスの時間と学年の時間が分かれること、情報伝達の遅れなど、運用面での課題も明らかになった。また、教職員が3学年の動きを総合的に把握しながら支援を行う必要性もあり、縦割りクラスを今後拡大・充実させていくためには、クラスの運営体制や関わり方の工夫だけでなく、高等部全体の仕組みの調整、そして教員自身の学びと研鑽が必要となることが、2024年度の取り組みを通してより具体的に見えてきた。これらの課題については次年度以降検討していきたい。

最後になるが、本稿では触れられないが、横割りクラスに関しても、初めての複数クラス体制の中、学年懇談やチーム担任制など、「平和をつくる一単位」として、様々な工夫と取り組みがなされたことを付記しておく。

ピースメイカーが育まれる学園、高等部の実現に向け、年齢や立場を越えて互いを尊重し合い、平和を実現する人が育まれるクラス作りを、生徒教職員共に行っていく。



感情カードを使っでのワーク



懇談の様子



Aクラスプロジェクトの発表



夏休み前の振り返り



卒業する3年生を送る